時事新報

歐洲列國の大勢（前號の續き）

露國の政略

露國が歐洲列國に對するの關係を說くに先ちて我輩の知るを要するものは其兵力あり露國政府は財政の困難非常にして國債の額亦甚ぞ多き此點より評すれば其基礎不安全なるに似たれ共また世界中の一大國あり土地廣く人口多く加るに專制の威令を以て頻に兵備を擴張するの今日なれば露國現在の陸軍は日耳曼佛蘭西に比して一歩と讓らざるのみか其數の大なると歐洲中之を及ぶものなかるべし又其軍紀令は極めて整頓したる者にて一朝召聚の命を下せば四百萬の大軍は瞬間にして辨ずべく更に之を增加すれば六百萬は陸軍露國の干城あらざるなし人或は之を虛なりとして疑ふものもあらんなれ共實は千八百七十八年東歐事件の爭ひ以來銳意兵備を擴張して今日は獨り其兵數の多きに止まらず砲兵隊の精銳は少しも佛日の二國に劣るなく騎兵隊は又ふれよりも多數にして佛日聯合若しくは日墺同盟の騎兵と雖も衆寡敵せざるは算數を於て瞭す可し又現今の常備軍は凡そ八十四萬人なれ共彼のコサック兵あるものゝ兵役を以て終身の業とする勇兵をして其數五萬人、彼此合して八十九萬人、日墺兩國の常備軍を合すと雖も尙ほ之に及ぶ可らず而して一旦事あれば前記四百萬の大兵咄嗟の間に聚まることなれば之に敵すべき日耳曼の兵は二百萬人墺地利は百二十五萬人相合はせても露軍より少きこと七十五萬人況や露國人い驍勇忍耐國權の爲めは生命を捨てゝ顧みざるの風あるとや之を敵として畏れざるを欲すと雖も得可らざるあり尙ほ其上に露國の人民は外國の事情を知ること甚ぞ尠く、知るものは唯僅かに日耳曼國民の名なるのみあり故に露國人の多數ゐは英人若くは佛人等の區別おく外國人と云へば必ず日耳曼人といふ如くに誤解をして特に之を憎むこと甚しく早晩開戰して日耳曼を亡ぼさざれば已まざるの覺悟あらざるゝなし唯政府上流の人若くい外國の形勢に通ずる者は斯くは日耳曼を疾まずして却て右の物議を制止し在廷百官の感覺も日耳曼より寧ろ墺地利に反對の趣なれども今後將來露日事あるの曉に當局者は其人民が日耳曼を疾ひの此心に依賴して大ゑ利する所ある可し唯歷史上れ由緒より之と見るに露日墺の三國は古來其建國の利害を同うして所ゆる神聖同盟なる者の仲間なれば今日と雖も露國が獨り日耳曼と敵にして戰端を開くべき筈なけれ共如何せん東歐事件に關しては墺地利と利害を殊にして露國より遂ゑ之を攻擊せざる可らざるの場合もならんとすれば其際日耳曼は輔車の關係より墺國を助くると要用にして餌命へ神聖同盟の書緣ありとも露國とは敵味方に分れざる可らず斯る情實は露國政府の知悉せる所にして露日連衡共に大に歐洲に爭ふの策は結局その望を少るきものと云ふ可し去迚佛國と眞實の利害を與にして斷然日耳曼を敵にするも如何あるべき唯何んとなく佛國の名を後ろ小楯へて陽に同盟の虛勢を張ること露國政略の眞相なる可し

露國が土耳格を窺ふや久し露領亞細亞の裏手より南侵して土京君斯坦丁堡を占領せんとの計畫は歐洲列國就中英國の最も恐るゝ所にして此點よりは墺地利と助けて露國の侵掠に抵抗すること大切ありと雖ども是れは前にも申せし如く英國より墺國ゑ援兵を送るまでにい早くして尙ほ一箇月を費すべく其間に露國の兵は內地より墺國に進入して見事ゑ全勝を占むるの餘裕ある可ければ英國の援兵は恃むに足らざるあり又或は伊太利の聯合あらば同盟艦隊を艤裝して黑海に激烈の攻擊を試むるの望ありて露國の攻擊を受けん事は露國孫ての海あり事あるの日に敵の攻擊を受けん事は露國孫ての覺悟にして沿岸の砲臺にも有らゆる準備を盡したれば英伊聯合の艦隊も所詮其功を奏すること能はざる可し唯東洋の極擂浦羅斯德の海港を碎擊して之を窘むるの一策あるのみなれ共此れにては左まで露國の妨害と爲るる可らず蓋し海港を荒されたるだけ損失は左る事あらんと雖ども戰略上ゑは毫も關係なく露國は依然戰爭を持久し得るゑ驍ひなきなり然るに之と同時に英國は印度に備へ阿富汗を守りて露軍の攻擊を遮ぎること大切あれば其兵力これを制止せられて專ら進擊れ地位に立つこと叶はざるも明白なり又露國が亞細亞の裏手より彌々土京に侵入せるに當りては地中海の要所と扼し英國に必要なる蘇西運河も事あるの日には獨り其用を爲さざるのみか陸上れ通路まで萬一露國に絕たれたらば英國が印度若くい支那に通ずるの航路亦喜望峰に由らざる可らず實に英國の憂ふる所にして即ち土耳格と助くるゝ併せて英國自身と保護するの道理と知る可し然るに世の論者中には露國が英領印度の境界と犯さざるを約し又埃及事件に英國を助けて公然其占領と認許するの場合には英國は君斯坦丁堡を露國に渡ゑ以て英露の同盟を締結せること得策なりと盲ふものゝ如し彼のランドルフチャウチル侯れ如きうの意見果して何ぞに在るやを知らずといへども侯は保守黨の列に在りながら故ビーコンスフヰルド侯の政策に反對して千八百七十八年土耳格帝國の組織を一新せんとしたる伯林條約さへ不滿意とする所なれば或は侯の想像中同く英露の同盟を全ふして平和を保さんとするの色あきを期す可らず夫は兎も角も現今英國撰擧民の大數は日增に戰爭を恐るゝものにて特に近來は有力の政治家も亦この考へなるに似され共土耳格を露國の手に渡して果して何ぞに在なかるべきや方今英國が小亞細亞地方ゑ握る所の商權は殆んど專有の姿にまて北部製造地方の利害ゐれに關する淺少あらざるに擧て之を露人ゐ與ふるの政略は人民の望を繫ぐべしとも思はれざるなり要するに英露の兩國が利害の關係と殊にするものは獨り土耳格事件に止まらず中央亞細亞阿富汗より延て印度緬甸に至るまで一帶競爭の土地あらざるゝおく東洋の極端と雖ども英國商賈れ利害は殆んど露國と相容れざるれ勢なれば萬一の事あるに當りては英國は露國よりサガレン嶋を分割して之を日本ゑ與へ日英の同盟を結ぶの策要用あらざるに非ずと雖ども（此處もアルク氏自ら言ふものと知る可し）尙ほ肝腎あるは支那とれ同盟あり幸ひ支那も英國と同樣露國とは全く反對の地位に立つものあれば同盟の策行れ難きゑも非ざるなり斯る次第なりとすれば英露兩國の間に差當り此れと云ふ戰爭破裂の原因は存せざれ共全體の利害抑も〳〵既に根底と相違にするの處あれば露國將來の政略は必ず英國と衝突の恐れある可きことあり

（未完）

官報

○農商務省告示第六號

第五回獸醫開業試驗擧行地及其期日左ノ通相定ム志願ノ者ハ明治十八年第十七號布達ニ準據シ其願書ニ試驗ヲ受ケント欲スル地名ヲ記載シ本年十二月中居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ

明治二十一年九月十日　農商務大臣子爵士方久元

明治二十一年四月　七日　東京府下東京
同　四月十四日　大分縣下大分
同　四月二十五日　長崎縣下長崎
同　四月二十日　靜岡縣下靜岡
同　四月　三十日　京都府下京都
同　五月二十二日　高知縣下高知
同　六月　四日　岡山縣　岡山
同　六月　十四日　鳴根縣下松江
同　五月二十三日　秋田縣下秋田
同　六月　六日　福嶋縣下福嶋
同　六月　十九日　新潟縣下新潟

○公債抽籤

一昨八日大藏大臣より左の通り東京府へ達したり

七分利付金祿公債元金償還の爲め本月十六日其廳へ國債記錄兩局れ官員出張抽籤執行爲致候條該公債證書れ所有者十名以上を攜み立會として同日午前第九時出頭候樣取計ふべし

○赤痢患者　廣嶋縣に於て去月二十一日より同二十七日迄屆出の赤痢患者は九十八人にして內死亡者三十一人あり（廣嶋縣）●德嶋縣に於て去月二十日より本月二日迄屆出の同病患者は二百五十七人あり（德嶋縣）

○東亞諸國に領事館を增置するの議　露領純東地方の航通を盛んなし以て商工業の發達を謀るため其筋に於て種々れ計畫あるとは吾人の屢々傳聞する所なるが就中貿易業を盛んにするため更に支那、日本及朝鮮の三國に露國領事館を增置して海軍其他商船の事に習熟せる海軍士官と以て領事れ職に任定せんとを海軍省より發議せりと云ふ（本年七月十六日露國ノーウオスチ）

（以上四件本年九月十日官報）

○歐洲諸國歲計豫算の缺點（去月三十一日の續）

又十年乃至十五年以來報酬を受けて公益事務を處辨すへきとの思想行はれて爲に財政を攪亂せられたる佛國の事情を按査するに千八百八十六年れ歲計豫算に於て同國の郵便收入と一億三千四百七十六萬法、其電信收入は三千四十五萬五千法にまて合計收入額一億六千五百二十一萬五千法なりとせ又右兩事務の支出豫算額は郵便電信省れ中央管理費二百八萬一千法、營業費一億三千四百十五萬四千二百六十三法、賠還費及缺損三百三十六萬七千法にして合計一億三千九百六十萬二千法なり故に佛國の郵便電信純收入は二千五百五十萬法の最低位に墜落せり更に精密に按査を加へは此僅少なる純收入は全く消滅に歸すと謂ふも可なり蓋し鐵道い國の爲に些少の報酬を受ると雖ども其所有に屬ゑ且つ郵便電信事務の用に供せる諸般の不動產に付ては毫末の利益をも收めず又大小地方に在りて屢々郵便事務れ爲に費用を辨ず時としては無料にて場所を供し若くい脚夫の費用を辨ずる若し此等の場合を精算せは郵便電信事務は四千萬法乃至五千萬法の純歲入と國庫に供すへきに之ゑ反ゑて其經費は政府れ負擔に歸せり元來此郵便電信事務を利用する各箇人と其利用の多少ゑ比例して之ゑ費用を支拂ふへきものなるに一切之れと國民全體に負擔せしむるは是れ亦自然的の經濟を錯亂するものなり

且つ夫れ郵便電信れ附帶事務を擴張するは固より便宜上ゑ出つるとにして人々政府に對して正當なる利益を併せて其經費を支辨せざるへからず何とあきは郵便及電信い國庫に幾分の利益を供すへき正當の工業なきはなし

夫れ政府い其自ら擔任する各種の事業に付き過半之か生財力と停止ゑ若くは之を減少するに於て一種特別の權を有するものゝ如し今他の一例を擧けんに森林大約一百萬エクタール（一「エクタール」は凡そ一町餘）を有ゑ昔時は此森林より三千八百萬乃至四千萬法の純收入を國庫に收めたり但し其內より森林事業費として凡そ一千二百萬法と扣除せざるへからず左それは純歲入は二千六百萬乃至二千八百萬法ゐ去く此金額たる固より多しと謂ふへからず然れとも尙ほ此收入ある所以のものは蓋ゑ當時此一百萬「エクタール」の官有森林中巴里府れ近郊若くは北方殷富の諸州に在るゑ多し此諸州に在るゑ多し然るに此消滅に歸せし佛蘭西及亞爾七年の歲計豫算に過きず而し千六百八萬二に係る費額五務省中央管理費れ同年度のし然れば一百林の純歲入は「クタール」にの歲入に比す林播植の爲にり假令此等の少おくも今日ら

抑々又特別省減少せるゑ以來其純歐洲諸國の歲い蓋し教育事るに因るものへからず總てせざるべらず非ざれば教師想像を爲し謝にて教授すするに至れるは財政の危險於て先輩者た四倍の多きを歲計ゑ於て備費一千二百の巨額に達す額のみにてもふんと今よん當路者に毫もたるにも拘はず狂愚の事實ゑ年以來小學教師率狂妄の徒非々小學教育の中等教育に就師の座席、學て過大に失せず大學に對し見を述べたり是を以て今日事、其毫も人ス　ルセ理方法の煩雜る事、其地方殺ものは獨立明故に文部美術るへからず而育を掌らしめの犧牲たるに堂校舍の奢廣文部美術省正錄遠の士の地方にして初活動の勢力と種不同の教育の制度ゑ代施さんと欲せ勇斷に出てざ余輩は尙ほ學に百般の施政八百八十七年較せゑ其孰と